

タイトル:平成 28(2016)年度 教育セミナー(第 12 回)

日時:2016 年 9 月 18 日(日)~21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「アリー・シャリーアティー(d.1977)の「キャヴィーリヤート Kavīriyāt」の

位置づけをめぐって — シャリーアティー研究への新たな視座 —」

村山 木乃実(東京外国語大学大学院総合国際学研究科)

去年に引き続き2回目の参加となりました。今年も非常に充実した4日間となりました。以下セミナーの感想と評価として、良かった点を私の経験を踏まえながら述べたいと思います。次回参加を考えている方の参考になることができれば幸いです。

【研究者や同年代の学生と交流ができる】

中東やイスラームを研究する学生は未だ少なく、自分の大学だと関心近い学生に会う機会があまりないという方が多いと思います。このセミナーは中東やイスラームについて研究する学生が様々な大学から集う貴重な場です。そこでの交流は良い刺激になり、モチベーションの向上や自らの研究に新たなヒントを与えてくれると思います。

学生同様、この分野が専門の研究者も日本では多くありません。このセミナーはAA研だけでなく全国から中東・イスラーム関連の研究者が集まります。私はここで多くの研究者に会い、研究に関して有益なアドバイスをもらうことができました。研究を深める良い機会になりました。

【博士課程に向けての良い発表の場】

博士課程に入ると研究発表の機会が増えていきますが、このセミナーはそういった博士課程進学を志す修士の学生にとって、貴重な経験を積む場になると思います。私は、前回は聴講者、今回は発表者として参加しました。聴講者として参加する場合は、研究発表でのコメントの仕方を、自ら質問することや他の受講生の質問を聞くことを通して学ぶことができますと思います。発表者として参加する場合は、発表準備から実際の発表までを経験することができます。テーマ決め・要旨及び配布資料の作成・発表練習等といった発表準備は、想像以上に時間を費やし、何度も書き直しては練り直す大変な作業でした。実際の発表も練習通りに上手く行かないことが起き、予想していなかった質問をもらいました。去年は発表者を聴講者の立場から見ながら、自分の発表を想像していましたが、実際にやってみると予想通りには行きませんでした。結果として、様々な困難に出会う中で多くの発見を得ることができました。失敗も自信につなげることができた、とても貴重な経験でした。

【先生方のセミナーも受けられる】

このセミナーは学生の研究発表だけでなく、AA研や外部のイスラーム研究者のセミナーもプログラムの中に入っています。ここでの研究者のセミナーの内容は、高度且つ最新の研究発表だけでなく、私達

のような若手に対してのアドバイスも盛り込まれています。現在の研究に至ったプロセスや、研究手法、研究者特有の悩み等、普段聞けないことを惜しみなく教えてください。「研究者」という職業をあらゆる角度から知り・学ぶことができました。